

「キリストにあって歩みなさい」

コロサイ 2：6

堀田修一 25・9・7

「このように、あなたがたは主イエス・キリストを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい」：6。

1. 主、イエス、キリストという名の意味を深く知り続け、意味を込めて呼びかけ祈ること、主を伝えることは幸いである。主＝ヤハウェである主、真の神、天と地のすべての支配者、権威をお持ちの方、私たちの主人、所有者であられる方。初代教会の信仰告白の内容「イエスは主である」（ローマ10：9、Iコリント12：3、ピリピ2：11）。キリスト＝油注がれた方（王、大祭司）、メシヤ、救い主、私たちの罪のために十字架で死に、よみがえられ、天に昇り、とりなしをしておられ、正しいさばき（私たち国民だけではなく、人々の命を奪う戦争を指揮する国々の指導者、自己中心な指導者を正しく裁かれる。ロシアのプーチン氏、イスラエルの指導者、アメリカのトランプ氏は、神を真に信じるキリスト者ではない。年に何回か礼拝に行ったとしても、心から生まれる実として主なる神を信じていないと分かる。早く悔い改め戦争を止め多くの命が助かるように日々祈りたい。自分の家が爆破される恐怖にいる人々の事を自分事として受け止め祈っている。他の国に支援をしなくなっているアメリカの指導者が、不当な戦争をするイスラエルに支援することがないように祈りたい）と救いのために再び来られる本物の救い主。「キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです」（ヘブル9：28）。イエス＝「主は救い」の意。神であられるのに私たちの救いのために人となられたへりくだりの方。

2. 「受け入れた」＝原語：迎え入れる、信じ受ける、同意する。①伝達された福音、教えを信じ受け継いだ。それに心から同意した。②生ける主ご自身を心と生活に迎え入れた。「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」（Iヨハネ1：12）。

3. 「彼にあって（原語：エン。の中で、近くに、そばに、霊的交わり・結合、によって、基づいての意）」。「歩みなさい」の前に「主キリスト・イエスを受け入れたのですから」と「彼にあって」があることが大変重要。ただ人間的熱心、あせり、先走り歩くのは良くない。それは神に喜ばれない。歩む前に、主の教え、主ご自身を心に受け入れる。そして、主の中にとどまる。主の近くにいることを至福の幸いとする。「私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう」（詩篇73：28）。最高に素晴らしい主のそばにいて歩む。主がそばにおられることを意識して歩む。主との霊的交わり、主との霊的結合、いのちのつながりを大切にする。その最高に大切な主とのつながりを邪魔している罪が自分にあるなら、それを正直に神に告白し赦しを得る。主

とのつながり、関係を壊す罪があるなら、神に告白し、聖霊に拠り頼み、信頼できる友に打ち明け心を合わせ罪に勝利できるように全能の神に祈る。神は真実な祈りに応えてくださる。「あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます」(マタイ18:19)。「互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人(完璧な人のことではなく、自分の罪を隠さず、神に告白し赦され神と正しい関係を持っている人)の祈りは働くと、大きな力(神が祈りに応え神の大きな力を働かせられる)があります」(ヤコブ5:16)。もし、失敗しても絶望せず、神のもとに行き告白し赦しを得、また信仰の友と祈り続けよう。完璧な人はいない。みな弱さがある。弱さも失敗も主の恵みも正直に分かち合い祈り合える交わりは本当に幸いである。かえって自分は大丈夫と思うなら危ない。「立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい」(Iコリント10:12)。

4.「歩みなさい」。原語：歩む、生活する、振舞う。その現在命令形：「歩み続けなさい」。一時的で主から離れるのではなく、主に結びつき主と共に歩み続ける。どう歩むかで決定的に重要なことは、歩み、行動の前に霊的(神の思い、神の視点で)に「考えること」である。愚かな私たちは考えないで行動するか、ゆがんだ考えで行動してしまう。霊的に考えるためには、神による知恵と知識、判断が必要である。それが2:3にある→「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです」。歩み、行動の前に私たちのゆがんだ心、視点、考え方が新しくされ変えられなければ、主の喜ばれる健全な歩みはできない。私たちには希望がある。それを神はしてくださる。「だれでもキリストのうちに(原語：エン)あるなら、その人は新しく造られた者です」IIコリント5:17。主にあって歩むとは、新しくされた視点、考え(聖霊とみことばによる)で神、自分、人々、物事、出来事、過去現在未来を見、考え、判断し主の喜ばれることを見分けて歩むこと。エペソ5:10。「物の考え方において子どもであってはなりません…考え方においてはおとなになりなさい」Iコリ14:20。気をつけないと、私たちは、主を信じてない時と変わらない人間的な世的な視点(偏り、全体ではなく一部分しか見ない)考え方(目先の損得だけを考える。罪の楽しみに価値を置く。結果・刈り取り・最後を考えない)で行動してしまう。しかし刈り取りがある。ガラテヤ6:7~9。それゆえに「何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心(思考・理解力、分別)の一新によって自分を変えなさい(変えられ続けなさい)」ローマ12:2が必要である。祈り求め、いつも思い巡らしたい。「私は、今ある問題、出来事、自分、人を神が支配しておられ(マタイ10:29)、意味があり、神が何かを教えようとしておられることと見、思い巡らしているか。私と神との関係が問題の中心であることを自覚しているか。これらのことについて、無意識のうちに生来の考え方に逆戻りしてないか」。万事を霊的(神の視点、神の思いを中心とした)に考え、主にあって歩むことを助けるもの→

- ①周囲の情勢は絶えず変化している。しかし、神は、変わらず私たちを支えられる恵みを覚える。
- ②全能の神は私たちの御父として、私たちを見守っておられる。神のご計画にないことは、一つも私達の身に起きません。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10:29。頭の毛さえも、全て数えておられるほど、私たちの試練や悩みを知っておられる恵みを決して忘れない。課題だけではなく、まず主の恵みを数えて感謝する→永遠の救い、赦し、愛、衣食住。
- ③神の御旨と神の方法は神秘。「隠されていることは、私たちの神、主のものである」申命記29:29。しかし、神が定め、許容されることは、すべて私たちの益(ローマ8:28)となる。

証し：人生を思い。

- ④私たちの人生における出来事すべてに、人知を越えた神の愛といつくしみが隠されています。だから、今理解できない事も神に委ね、神を信頼したい。「神の思いは、人の思いと異なり、神の道は、人の道と異なる」参照イザヤ55：8。パウロは肉体のとげや多くの試練を通して神の恵みの大きさを学んだ。
- ⑤苦しい情勢そのものに、目を奪われることなく、神の御手にないものはなく、神の取り扱いの一部と認め、私たちを主の姿に成長させる過程と認めたい。
- ⑥今の試練、苦しみ、状況がどうあろうとも、それらは一時的であり、過ぎ去り、主にある神の愛から私たちを引き離すことはできない。「うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし」ピリピ3：13。過去は変えられない。後悔に縛られず主を向いて、これからのことは主に頼って歩めるのです！

この世に意味のない偶然はない。すべてに神による意味、御計画がある。私たちには、すべてを支配し、私たちを命を懸けて愛しておられる神に祈ることが出来るのです。「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ18：1。証し。人の痛みを思いやる事の少ない者から、共感し祈る者へ。